人と建築展19

住宅の骨格

佐藤重徳

会期＝2025年
3月15日[土]→3月23日[日]
時間＝11:00→17:00
場所＝ギャラリー・オルガン

人と建築展19

住宅の骨格

佐藤重徳

佐藤重徳（さとう・しげのり）
1960年／東京都生まれ
1983年／東京電機大学工学部建築学科卒業
1983→1989年／開建築設計
1990年／アジア・ヨーロッパ・アフリカ旅行
1991→1997年／レミングハウス（中村好文主宰）
1997年／佐藤重徳建築設計事務所設立
https://satosigenori.com

古い民家を再生してまで手に入れようとしている人達がいます。たくさんの手間、費用、時間がかかり、多くのエネルギーと強い意志が必要と思います。それでも手に入れたい。それだけ民家は建物として、住居として大きな魅力があるのでしょう。民家と縁の薄い現代の住宅を設計している私も、その魅力に取り憑かれています。そしてよく民家を見に行きます。旅先でも民家園があると聞けば、巡礼者のごとく行くことになります。

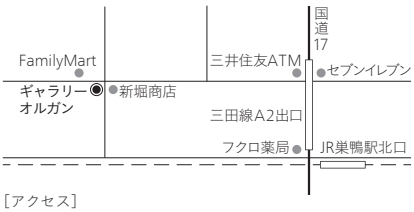
民家を訪ねるとまず、大地と一つになり大きく美しい屋根を持った姿に心打たれる。一歩、建物の中に入ると何か大きなものに包まれ、守られているように感じ、たいへん居心地がいい。その理由がわかりたくて民家に通い始めました。

通ううちに、その居心地が木のぬくもりとか煤けた匂いではなく、家をつくる骨格によるものではないかと思うようになりました。その骨格が生活を支え、包み込んでいる。特に骨格の存在を強く感じた民家は単純明快な小屋組で、平面も同様に単純なものでした。構造的に明快につくられた大きな建築はたくさんありますが、民家という小さな建築が人の住まいであるということで、一層、骨格の存在に意味があると思いました。そして、生活と建物を包括した骨格の存在が建築の役割であり、建築の居場所ではないかと考えるようになりました。

普段の設計は、敷地条件や建築の法的条件、現実的なコスト、クライアントの夢や希望をもとに設計することになります。それらたくさんの事と暮らしを考え、その家にふさわしい建築、ひとつの骨格があるのではないかと思い、住宅をつくり続けています。

今回の建築展は、「住宅の骨格」を意識しはじめた頃から現在までの約20軒の展示になります。「住宅の骨格」は柱や梁などの建物の内側、構造から始まりました。次第に周辺環境や社会環境など建物の外側に意識が広がり、現在は自然環境まで考える骨格になりました。その様子をこの展示で身近に感じていただけたらと思います。

人と建築展19／入場無料
場所＝ギャラリー・オルガン
住所＝東京都豊島区巣鴨 3-25-6-1F
主催＝合同会社tmaa／Tel.050-3595-1996



［アクセス］
・JR山手線「巣鴨駅」北口より徒歩3分
・都営三田線「巣鴨駅」A2出口より徒歩1分